

平成19年度(2007年度)第1回 池田市立図書館協議会会議録要録

日時：平成19年7月21日(土) 10時～12時

場所：池田市立図書館 2階会議室

出席者：(委員)たつみ会長、丸山副会長、松本委員、有吉委員、村上委員、富坂委員、榎野委員
(事務局)田淵教育部長、玉手生涯学習推進室長、長森図書館長、他図書館員4名

傍聴者：なし

<次第>

報告事項 1.平成18年度 図書館事業報告について
2.平成19年度 図書館事業計画・予算について

審議案件 1.図書館の将来像(「池田市における図書館のあり方」について)
2.図書館まつりについて
3.その他

配布資料 1.池田の図書館活動 19年版
2.図書館職員研究会中間報告

会長：おはようございます。平成19年度第1回図書館協議会を開催いたします。先ず、館長の方から事業報告等についてお願いします。

<長森館長より18年度事業報告及び19年度事業計画・予算について報告>

会長：では、本日の審議案件「図書館の将来像」に移ります。

事務局：以前に図書館の将来像について、「先ず最初に図書館としてはどう考えているのか」というご意見をいただいております。きょうお配りした資料は、図書館職員研究会で検討してきたことの中間報告をまとめたものです。こういったものも参考にさせていただいて、合わせて将来像を考えていただければと思います。

会長：図書館協議会等で話し合ってきたことが研究会の中で反映されていますか

事務局：図書館の将来像を考えていく中で、具体的な事柄や年次計画など、皆様のご意見、市民の方のご意見を取り入れていく等、かなり反映していると思っています。例えば、既に移動図書館の学校への巡回など、できることは実行に移しています。

委員：短期計画の中に、「1階と2階の統合」とありますが、具体的にどういうふうにするのですか。

事務局：2階は専門室となっておりますが、池田市として専門的にコーナーを設けなくてはならないのは郷土・行政資料、参考資料であって、それ以外の資料は1階と2階に分けて置く必要はないと考えております。利用者にも分かりにくいこともあり、総合的な配置にしていこうということです。

委員：将来構想を考えて行く中で、自習室の問題を含め、館内スペースの狭さが問題になっていますが、どう考えていますか。理想論がいろいろ書かれてありますが、利用者が使いやすい図

書館にするためには具体的な案が必要ではないでしょうか。

事務局：大改造となると費用がかさむことになり現状では無理な部分があり中期計画の中ではちょっとした改造しかできないと思われます。自習室の改造だけであれば、玄関に盗難防止さえ設置できればそれほど費用もかからないので、まず中期計画で自習室のスペースを他に転用することができないかと考えております。改築や移転の話は長期計画の中で考えたいと思います。

委員： 次の市の総合計画の中に図書館の改築や移転について載るのですか。

事務局：今はまだ何も聞いておりませんが、前から申し上げておりますとおり図書館の機能的な部分は載せてもらうよう働きかけはいたします。その検討の中で移転になるのか、改築になるのか、分館増設になるのか総合計画の遡上に上った段階で決定になると思います。

会長： そのことに関して、部長としてはどう考えておられますか。

部長： 教育施設の総合的な再編については大きな検討課題にあがっていますが、一方で市内学校の設備も老朽化してきており、今後耐震構造の問題もありますので施設整備については優先順位を決めて検討していくことになると思います。また一方で、総合教育センター構想もあり、公民館や図書館といった教育施設についてどうするのかといった問題は、市の全体構想の中で検討するということになると思います。

副会長：短期・中期計画を考えると、図書館の機能を多くの市民が享受するために、地域の利便性を高めていかななくてはなりません。そのためにステーション（図書館の拠点）を増やしていくことが可能かどうか、学校も含め幼稚園、施設のステーション化を考えていくべきではないかと思えます。また、地域のボランティアも視野に入れて検討する必要があります。地域のサービス拠点ができれば、駅前図書館は別に必要ないのではないかと思えます。それともひとつ、頂いた資料に学校に対するサービスとして、調べ学習等の利用指導の支援について書かれていますが、学校としましては今まで以上に蔵書面での支援を優先していただきたい。

委員： 資料の「将来計画」に市民に役立つ図書館と書かれていますが、情報提供していく市民の課題解決のために図書館が支援をするのであるから、市民が情動的に困ったときに図書館へ行けば何とかするという気持ちになってもらわなくてはならない。そのためにはどうするか。インターネットによる予約が増えるのは、それはそれで良いことですが、そういうことだけではなく、広報戦略として、市民にPRできるHPを作っていかななくてはならない。実際図書館のHPは非常に使いにくいですね。市民を惹きつけるHPに改善しなくてはならない。また、インターネットを使い慣れない人向けにはどうするかも考えなくてはならない。そのためには広報スタッフのメンバーも作らなくてはならないのではないかと思えます。あと、調べ案内等の作成ですが、今からでもとりかかっていくべきではないでしょうか。

事務局：図書館の使い方教室、インターネットの使い方等、出前講座も含め簡単なところからやっつけていこうと考えているところです。調べ案内につきましてもできるだけ早くひとつの形にできあがるようにしたいと努力しております。また、コンピュータの更新により、HPもリニューアルしますので、その中でいろいろ考えていきたいと思えます。

委員： 図書館が、本を読むところ・借りるところというだけでなく、コミュニケーションの場としても捉えていってもいいように思いますが。

副会長：学校図書館の機能の中に「集い」が大きな要素を占めています。公共図書館の場合でも集

いの場合であり、学びの場合であるということが今後求められると思いますね。

委員： 将来的に考えると、人間のネットワークというものを目指していかなくてはならないでしょうね。図書館にはインターネットの情報もあるし本もあるが、人間の情報も集まる。そこへ行くとおもしろい刺激になるし、問題解決にもなる。ただ、そのためには図書館員のコーディネイトやマネジメント能力が求められる、そういうことも視野に入れて図書館の将来を考えていかなくてはならないですね。

会長： ネットワークづくりの場としての図書館・コミュニケーションの場としての図書館の有り様という将来像を考えるといったところで、次にネットワークづくりのために例えば2番目の案件であります今年度の図書館まつりを考えては如何でしょうか。
では、次の議題に移ります。

事務局： 以前、図書館協議会懇親会の情報交換の中で、本筋の諮問の検討とは別に、協議会として図書館の存在や利用価値を如何に広く市民に知らせるかを考えましょう、という話が出ていました。具体的には、一つは、図書館を親しまれる存在とするために、愛称をつけてはどうかという話でしたが、これを協議会の意見とさせていただいてよろしいでしょうか。

会長： 良い話だと思いますが、みなさんいかがですか。

委員： 特に問題がなければ、図書館で企画していただければいいのではないのでしょうか。

事務局： では、具体化はこちらで行います。続いては、同じく情報交換の中で出てきていた図書館まつりへのかかわりの件です。協議会として、何かブースを作り、カフェや売店を開いてはどうかという意見が出ていましたので、ここに案件として出させていただきました。

<館長より図書館まつりについて今までの経過及び今年度の予定説明>

委員： 図書館駐車場を利用して何か出し物を検討してはどうでしょうか。人が集まるようなイベントを行なうということで、PRや方法を考えてはどうですか。ただし、図書館協議会はボランティアグループと一緒に図書館まつりを盛り上げるサポート役として、図書館まつり実行委員会に協力する形をとった方がいいと思います。

会長： 図書館協議会は飽くまでもサポート役の立場で、市民主体がいいと思いますね。

事務局： 次回(9月6日)の図書館まつり実行委員会に出席していただいて、計画に参加してはどうですか。

会長： 代表で2人出席していただいた上で、10月に集まって具体的な計画を立てましょう。それではそろそろ時間ですので、将来像に関しては次回までに何か急を要することがあれば専門委員会を設けることも考えておりますが、それはメールで相談するというにしたいと思います。図書館まつりに関しては実行委員会に参加した方にメールで報告していただき、10月に会合を持つということにしたいと思います。

事務局： 日程はまた後日連絡いたします。本日はこれで終了させていただきます。